

各地域における青少年育成事業・青少年の活動の様子

新庄市 自然と共生 暮らしに活力 心豊かに 笑顔輝くまち新庄

新庄市青少年育成市民会議の活動

新庄市青少年育成市民会議は、青少年関連事業への助成や環境浄化活動の推進、啓発イベントの実施、高校生ボランティアやジュニアリーダー育成への支援、あいさつ運動など、年間を通して活動を行っています。



友好自治体である茨城県高萩市への児童交流事業も7年目を数え、市青少年育成推進員を中心とした指導者が高校生ボランティアと共に引率し、7月に新庄市の小学5・6年生35名が1泊2日の日程で高萩を訪問しました。お互いの歴史的なつながりを学んだり、高萩祭りの踊りパレードに参加したり、海遊びなどをしながら高萩の高校生や子どもたちと交流しました。8月には高萩市の小学6年生が新庄を訪れ、市内散策や人工降雪・そば打ち・東山焼など、様々な体験を行い、7月に高萩に行った新庄の子どもたちとも交流しました。また、新庄市教育の日「記念行事」を市教育委員会と共催で実施し、「だがしや楽校(がっこう)」では、かむてん人形の絵付けや、工作などのブースを、大勢の子どもたちに体験してもらいました。

今後も青少年の健全な育成につながるよう、関係機関と連携し事業を展開していきます。

真室川町 ま 人と地域と自然が輝く 協働のまちづくり

子ども遊び体験天国「えんにち」

子ども遊び体験天国「えんにち」を開催してから、今回で14回目を迎えました。子どもたちの体験活動や交流機会の充実が、健やかな成長に繋がることを願って、多くの団体の参画のもと開催しています。今回も、「いじめ・非行をなくそう」やまがた県民運動の独自事業として、青少年育成推進員の企画により「もちつき体験」を実施しました。会場内の子どもたちはもちろん、高校生ボランティアや新庄神室産業高校真室川校の生徒たちが、杵を使った餅つきを体験して楽しみました。あんこ餅やきなこ餅として振る舞われ、多くの来場者が舌鼓を打ち、幅広い世代での交流が図られました。他にも、クラフトや昔遊び、科学実験、フリーマーケットなど体験コーナーは多岐にわたり、クイズ大会や大抽選会も催され、子どもたちの歓声が響きわたりました。

次代を担う青少年の健全育成のためには、地域全体で見守っていくことが重要です。「えんにち」で築いた繋がりを生かしながら、青少年育成推進員を中心に、いじめ・非行の防止・根絶に向けて、今後も取り組みを継続していきたいと考えています。



金山町 四季 奏でる町 金山

美しい自然 清い心の町 金山

平成27年度「金山町青少年健全育成町民大会」を、7月16日(日)に金山町農村環境改善センターにおいて開催しました。活動発表では、和太鼓サークル「響華」に演奏を行っていただきました。「響華」は町内の女性のみによるメンバーで構成されており、小中学生も一緒になって活動を行っております。男性に負けない迫力と、女性ならではの美しいメロディで素晴らしい演奏でした。また、「魂のヴォーカリスト 杉山裕太郎」氏に「絆 ～僕が命の大切さを知った日～」と題し、ご自身の体験を基に講演していただきました。杉山氏は少年時代は暴走族に属し、薬物にも手を出し、人生のどん底を味わったものの、両親との和解をきっかけにご自身の体験を歌にして、歌手としても活躍されている方でした。約100人の参加者は涙を流しながら聴き入っていました。

また、夏休み期間には夜間パトロールを実施し、青少年に対し、大人がしっかり見守っているという姿を示すことができているのではないかと思います。今後も春休みにパトロールを行う予定です。



舟形町 若あゆと古代ロマンの里 ふながた

高校生ボランティア・ふなっ子の活動

舟形町高校生ボランティア「ふなっ子」は、高校生らしい発想と行動力を生かし、自分たちが楽しいと思えるようなボランティア活動を企画実践しています。今年度は、6月に「舟形ほほえみ保育園」を訪問し、園児との触れ合い活動や花植え、グラウンドの草むしりなどを行いました。その他にも舟形パーキングや舟形駅の清掃、福祉施設ボランティア、舟形小学校「夕涼み読書会」などに参加しています。また、今年度、山形県青少年健全育成県民大会において「いじめをなくそう高校生サミット」が開催され、高校生ボランティアサークルの代表として「ふなっ子」が参加しました。様々なボランティア活動を通じた地域社会との関わりから、いじめ防止についての考えを発表しました。各高校や高校生ボランティアサークルがいじめ防止に関する具体的な事例などについて意見交換し、子どもや地域の大人たちが、いじめ防止についてこれから取り組むべきことなどを改めて考える機会となりました。これからも「ふなっ子」は、地域に根差したボランティアに取り組み、地域の活性化に貢献していけるよう積極的に活動していきます。



各地域における青少年育成事業・青少年の活動の様子

鮭川村 「清流」と「きのこ」と心のふる里

鮭川村の青少年育成活動

鮭川村青少年育成推進員会は、現在9名で活動しております。年度当初の推進員会で具体的な活動計画を協議します。

長年継続している活動として「巡回指導」があります。これは新庄市内の高校生の通学路にあるコンビニ等を巡回して高校生の様子を見て回る活動です。「指導」という言葉を使っていますが、最近では問題行動も見かけず、出会った高校生へ激励の意味をこめて声をかけております。声をかけられた高校生も笑顔で応答してくれ、推進員と高校生で会話が盛り上がることも多くあります。特に村内出身の高校生と会った時はなおさらです。こうしたコミュニケーションを重視した取り組みは、上からの「指導」よりも効果が大きいと感じています。

これからの活動としては、村内ボランティアサークルのヤングサーモンズ、SAKEKKO、サケッコ・Jrと一緒にボランティア活動を実施する予定です。昨年度は2回実施しており、この活動も青少年と一緒に活動をするこにより、コミュニケーションを深めることが最大の目的です。大人と青少年の垣根を除き、お互いを理解することが、青少年の健全育成につながると感じています。



最上町 歴史と温泉と緑の町

戦場に輝くベガ ～約束の星を見上げて～

最上町青少年育成町民会議の主催事業として、8月1日に戦後70周年特別企画、平和教育講座「戦場に輝くベガ～約束の星を見上げて～」を開催しました。戦後70年を迎え、戦争を経験された方の高齢化により、今の子どもたちは戦争の話を生で聞く機会がなくなりつつあるため、家族で平和の大切さを改めて考えてほしいという思いで企画しました。初めにプラネタリウム番組である「ベガ」の投影を行いました。これは、戦争により離れ離れとなった、天測で陸上爆撃機「銀河」を導く若き偵察員と、そのための「高度方位歴」を計算する学徒動員の女学生の二人を、織姫星のベガがつかないでいたととも攻撃の目印にもなったというお話です。

「天測の神様」と呼ばれ、戦時中は偵察員、戦後も航空士として天測とともに生きてこられた、映画製作協力者の一人である当町在住の平山幸夫氏、映画製作者の跡部浩一氏・高橋真理子氏、実行委員長五十嵐隆一氏による対談会を行いました。対談会では、平山氏の当時の戦争に対する思いを中心にお話をいただきました。来場者は、「戦争を経験した方からのお話は大変実感がこもり、平和の大切さが分かった」と感想を述べていました。今回の講座を通して、家族で平和について話し合っていたことにより、子どもたちの健全育成につながる事業であったと思います。



大蔵村 むら美しく・人いきいき キラリおくら

自然に挑む体験学習「葉山塾」!

自然体験事業「おくら葉山塾」(小学5・6年対象)は、20名の参加を得て、肘折温泉の祓川と銅山川の合流地点で行いました。葉山塾は「達人に学ぶ大蔵の自然と歴史」をテーマに、体験活動を通して子どもの生きる力を育むことがねらいです。青少年健全育成事業の柱となるこの事業は、推進員が活動の中心的役割を担い、二泊三日の日程で実施しました。しかし、初日、登山後の川遊びの途中で降り出した雨のため、宿泊場所を赤松生涯学習センターに移す等、的確な状況判断が求められる事態に遭遇しました。

翌日、合流地点で流しそめんや岩魚捕りの活動を行いました。子どもたちが楽しみにしていたキャンプファイヤーは、中止せざるを得ませんでした。天候が回復しないと判断し、3日目の活動は、中止しました。

事業を行うにあたり、推進員の皆さんが天候等の状況判断を迅速かつ的確に行った結果、日程は短縮せざるを得なかったものの、子どもの怪我や事故もなく終了することができました。子どもたちにとって、貴重な体験をした忘れられない2日間だったと思います。「おくら葉山塾」を青少年健全育成事業の柱に位置付け、今後も活動内容を創意工夫しながら継続して実施し、大蔵村の特色ある事業として、育てていきたいと考えています。



戸沢村 豊かな自然に四季のかおりと 舟唄のこだまする村

中井町・戸沢村ふれあい交流事業

中井町・戸沢村青少年ふれあい交流事業は、平成3年に始まり、2泊3日の日程で戸沢村と神奈川中井町の小学6年生の児童交流を行っております。本事業は、中井町と戸沢村両町村の青少年が相互訪問し、お互いの町村の人や自然、歴史、風土、産業等の異文化に触れると共に、ホームステイ等の交流体験を通して、将来積極的な行動力と広い視野と思いやりのある豊かな人づくりを目指しています。

例年、夏季は戸沢村から中井町へ訪問しますが、交流を始めて25周年という節目を迎えた今年は、夏に中井町の方を迎え入れる形にしました。戸沢村を会場に中井町児童10名、戸沢村児童13名が参加し、最上川を舞台にイカダ下りや滝つぼ遊び、魚釣りなど戸沢村の大自然を満喫しました。また、児童だけのテント設営や夜の森を歩くナイトウォーク等、普段は体験できない活動も行いました。交流に参加した児童からは、「川遊びがとても楽しかった」「オールでこぐのが難しかった」「新しい友達が増えたので参加して良かった」等の感想が聞かれました。

戸沢村に住んでいる児童でさえも、交流や自然体験を行う機会が減ってきていると思います。これからも「共育の村」戸沢村として、形を変えながらも交流を継続していきたいと思っています。

